

# 5th Grand Canvas パネル

～AI事業者が積極的にリスクを取るために～

2025年7月8日

妹尾義樹

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

# AI品質マネジメントイニシアティブ AI Quality Management Initiative

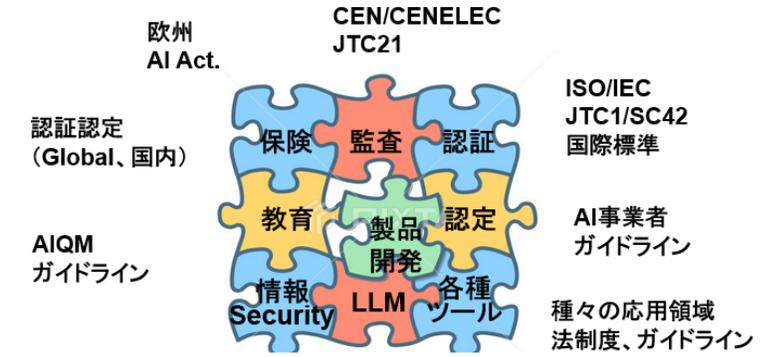
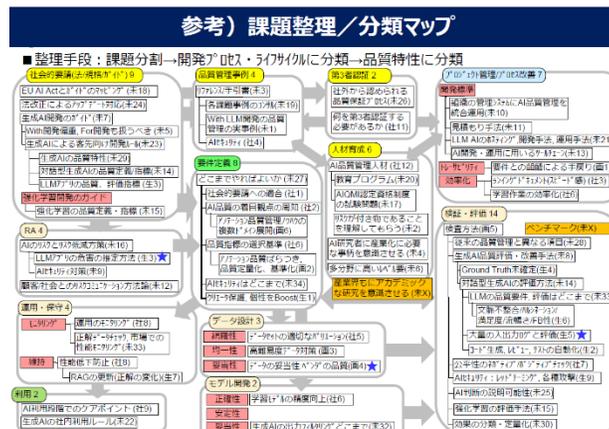
⇒ 共通の問題解決を各社が行う“無駄”をなくす  
⇒ 企業間のネットワーキングと互助を促進

⇒ 共通の問題解決を各社が行う“無駄”をなくす  
⇒ 基準についての「相場感」(社会的合意)を作る  
⇒ 企業がリスクを取ってイノベーションを起こす

## WG1 情報共有と発信 (主査:新原敦介様)

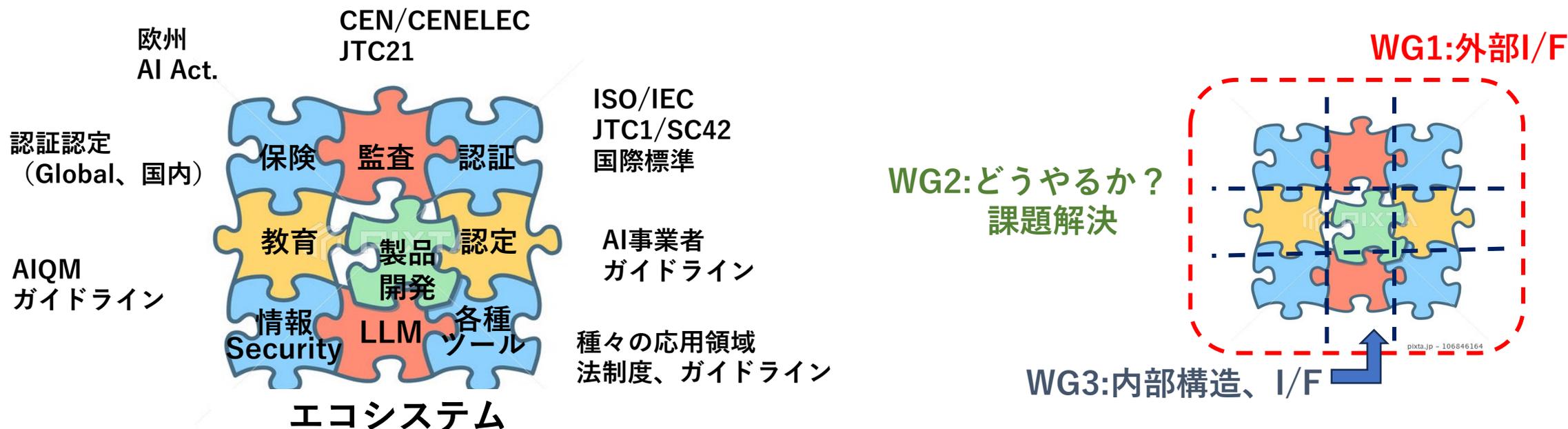
## WG2 事例検討 (主査:難波孝彰様)

## WG3 エコシステム育成 (主査:山田敦様)



# AIQMI WGの活動の全体像と役割分担

- WG1：エコシステムと外とのインタフェースについて調査し、何をなすべきかを明確にする。また、エコシステム外について、必要に応じて我々の意見を発信する。
- WG2：WG1,WG3で決まった「何をなすべきか」についてどうやるかを考え、その際に課題となるものの解決策を検討し、文書化する。
- WG3：エコシステムとして必要な機能の洗い出しと、連携構造を明確にするとともに、プレイヤー間のインタフェースとして必要なものを検討する。



# 補足資料

# リスクマネジメントと社会コンセンサス

AIの品質マネジメント：100%の品質保証は不可能

0% 100%



品質マネジメントの努力

残存リスク

賠償金、罰金、ブランド毀損



どこまでやればいいのか？考える想定範囲は？  
(100%に近づけるほどに高コストがかかる)

最悪の事態は回避

社会から  
やるべきことは  
やったと認知される

社会から  
やむを得ないとの  
合意を得られる

# リスクテイクについて

## ■なぜ、リスクテイクが必要か？

- AIの事業活用には必須、金融界も声明を出している。

## ■なぜ、リスクテイクが難しいか？

- 100%の保証が難しいから。リスクの見積が困難。責任の所在を明確にする必要がある。認証制度がない。
- 自信をもって見極められる人がいないから。

## ■リスクテイクのために何が必要か？

- 社会的コンセンサス。補償制度。認証制度。リスクを明確化できる人材育成。

## ■リスクテイクのために、我々は何をすべきか？

- WG1はリスクテイクのために必要な外界要請への対応を検討。
- WG3はエコシステムで分担してリスクテイクする仕組みの検討
- WG2は技術課題の解決。どうすればできる？どこまでやればのいいか。

